

	情報発信	コミュニティ形成・連結	プロジェクト創出	プロジェクトのショーケース
アウトプット(事業量)	<p>情報発信 700 件 <u>[700]</u></p>	<p>① イノベーション人材のコミュニティ形成 72 回 <u>[72]</u> 学生、VC、起業家、支援機関、企業を対象としたイノベーター人材のコミュニティ形成のためのセミナー等</p> <p>② 海外ワークショップ(学生、起業家) 1 回 <u>[1]</u></p> <p>イベント参加者数 6,500 人以上 <u>[6,500]</u></p>	<p>① ニーズ顕在化プロジェクト構築プログラム 2 回 <u>[3]</u></p> <p>② プロジェクト創出プログラム(うち、オープンイノベーションマッチング) 8 回 <u>[12]</u> 4 回 <u>[4]</u></p> <p>③ ピッチイベント 42 回 <u>[35]</u></p> <p>④ OIHシードアクセラレーションプログラム(OSAP) 2 回 <u>[2]</u></p> <p>イベント参加者数 14,917 人 <u>[12,969]</u> (別途、拠点来場者 2,468 人 <u>[3,644]</u>)</p> <p>※合計 17,385 人 <u>[16,613]</u></p>	<p>● 国際イノベーション会議開催 プロジェクトのプロモーション機会創出 参加者: 700 人以上 <u>[650人以上]</u></p> <p>国際会議 1 回 <u>[1]</u></p>
実績(3月末現在)	<ul style="list-style-type: none"> ● イベント告知 日本語 346 本、英語 8 本 ● イベントレポート 日本語 2 本、英語 2 本 ● 起業家紹介等 日本語 4 本、英語 0 本 ● ニュース 日本語 42 本、英語 6 本 ● HP新コンテンツ 日本語 36 本 ● FB 投稿 日本語 349 本、英語 78 本 ● メルマガ 41 本、DM66 本、プレスリリース 6 件 <p>計 958 <u>[933]</u> (内他自治体のイベント発信件数 21 件 <u>[11]</u>)</p> <p>・その他、他自治体における OIH でのイベント発信件数 29 件 <u>[7]</u></p>	<p>① イノベーション人材のコミュニティ形成 220 回 <u>[181]</u></p> <p>② 海外ワークショップ 2 回 <u>[2]</u></p>	<p>① 6 回 <u>[5]</u></p> <p>② 14 回 <u>[16]</u> (5 回 <u>[5]</u>)</p> <p>③ 45 回 <u>[52]</u></p> <p>④ 2 回(第3期、第4期) <u>[2]</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際イノベーション会議「Hack Osaka 2018」を平成 30 年 2 月 27 日(火)に開催 ● テーマ:「つながる力・つなげる力でセレンディピティを生み出す-Give Before You Get-」 ● キーノート: Tiantian Zhang 氏 (Co-founder of Vigo Technologies)、グローバルチャレンジャーズトーク: 須田健太郎氏 (FREEPLUS 創業者) 他 ● インターナショナルピッチコンテスト(ヘルスケア、トラベルテック分野等)、スタートアップショーケース(展示ブース)、学生ピッチなど同時開催 ● 参加者数 684 人 <u>[737人]</u>
アウトカム(成果)	<p>国内外のメディアに取り上げられる</p> <p>定量的指標 (開設(H25)~30 年度累計)</p> <p>① HP のユーザー数 326,000</p> <p>② FB の「いいね」数 8,300</p> <p>③ メルマガ登録者数 22,000</p> <p>④ 展示会出席 1 回</p> <p>定性的指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● メディア掲載数及びメディアによる評価 	<p>起業・イノベーション創出を担う人材を輩出する多様なコミュニティの活動が活性化している</p> <p>定量的指標 (開設(H25)~30 年度累計)</p> <p>① 会員制度登録者数* 1,000 ※OIH メンバーズ会員(プレイヤー・パートナー)、旧 Osaka Hackers Club</p> <p>② OIHメンバーズ会員が持つ情報発信対象者数 33,000</p> <p>定性的指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティの形成が促進されている ● 多様なコミュニティが参画している ● グローバルネットワークが形成されている 	<p>イノベーション創出に資するプロジェクトの具体化が進行している</p> <p>定量的指標 (H28~30 年度累計)</p> <p>① 事業化プロジェクト創出・推進支援件数 50 件以上/年(H28~H30 150 件以上) (投資を受けたプロジェクト(調査回答分)25 億円)</p> <p>(事業化定義)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 守秘義務、共同研究等契約関係、ソフトウェア等における試作版の公開、資金調達に向けた具体的アクション ● スーパープロデューサーが認定したもの 	<p>開催する国際会議が国内外から注目度が高いプロジェクト発表の場となる。</p> <p>定量的指標</p> <p>① 海外関係からの参加者数 100 人程度 <u>[100]</u></p> <p>② メディアでの掲載数 10 件以上 <u>[10]</u></p> <p>定性的指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 参加者やメディアによる評価内容 ● YouTube、Facebook の情報発信効果
目標設定の考え方	<p>平成 27 年度の実績を勘案して設定している</p>	<p>平成 27 年度の実績を勘案して設定している</p>	<p>25 年~27 年度の 3 ケ年で、プロジェクト創出支援 100 件を目標、27 年度の目標 50 件を 28 年~30 年度に継続</p>	<p>時宜にあったテーマ設定や効果的な情報発信を行うことで、少なくとも昨年度並みの成果を設定している</p>
実績(3月末現在)	<p>定量的指標 (H25~29 年度累計)</p> <p>① 321,750 <u>[H25~28 計 240,247]</u></p> <p>② 7,254 <u>[" 6,209]</u></p> <p>③ 16,297 <u>[" 14,180]</u></p> <p>④ 3 <u>[-]</u></p> <p>定性的指標 (国際会議含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● WEB メディア掲載 44 回 <u>[41]</u> ● 新聞・雑誌掲載 48 回 <u>[13]</u> ● テレビ放映 10 回 <u>[5]</u> ● 昨年度からの OIHシードアクセラレーションプログラム参加企業が新聞等で紹介されるようになっていた。また、JIP深センプログラム等の取組等がテレビ、新聞等で好意的に紹介された。 	<p>定量的指標 (H25~29 年度累計)</p> <p>① 917 人(プレイヤー 649 人、パートナー 268 人) <u>[H25~28 計 761(537, 224)]</u></p> <p>② 119,202 人 <u>[H25~28 計 104,885]</u></p> <p>定性的指標 関係先とネットワーク構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ● OIHの学生スタッフがコミュニティリーダーとなり、エンジニアによるコミュニティ「Developer Circles Osaka from Facebook」を立ち上げた。今後エンジニアの OIH への巻き込みが期待できる。 ● 米国や中国・深センのアクセラレーター、フランス、イスラエル、スイスの政府機関などと連携した事業を実施し、海外ネットワークを拡大。 	<p>定量的指標</p> <p>ビジネスプランコンテストや、プログラムでの成果発表等を通じて形成されたチームの状況の把握に努めている。</p> <p>① 55 件 <u>[56]</u> (シードアクセラレーションプログラム事業の 20 件を含み 55 件) <u>[H25~28 累計計 171 件]</u></p> <p>(投資を受けたプロジェクト※ 約 15 億円。融資を含め約 24 億円) <u>[H25~27 累計約 17 億円]</u></p> <p>※OSAP参加企業の実績。その他の OIH で支援した企業への投資額は H30 年度末に集計</p>	<p>定量的指標</p> <p>① 外国人参加者数 86 人、比率 12.5 % <u>[94/737 で 12.8%]</u></p> <p>② 13 件 <u>[13 件]</u></p> <p>定性的指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ustream 視聴者数(当日): 142 件 <u>[384]</u> ・Facebook 投稿(当日) : 37 件 <u>[41]</u> ・Facebook いいね(当日) : 117 件 <u>[131]</u>他 <p>・参加者アンケート(N=101): 「満足」、「やや満足」計 73% (参考) 昨年度「Hack Osaka 2017」You Tube 閲覧件数 777 件(2018 年 3 月 14 日まで)</p>

評価：S 目標・達成水準を上回っており、特筆すべき進捗状況にある
 B 目標・達成水準の到達に向けて、おおむね進捗している
 A 目標・達成水準に到達しており、順調に進捗している
 C 目標・達成水準の到達のために、重大な改善事項がある

			情報発信	コミュニティ形成・連結	プロジェクト創出	プロジェクトのショーケース
自己評価	段階別評価	アウトプット	B	S	A	A
	アウトカム	A	A	S	A	
自己評価各事項別コメント			<ul style="list-style-type: none"> ● <u>情報発信数は年間の発信目標数を上回っている。</u>今年度後半から、メルマガの配信が隔週から毎週になり、充実することができているが、一方で<u>イベントレポートや英語での発信が手薄な面があった。</u> ● ユーザーが必要な情報を探しやすいよう、OIHのWebサイトを9月1日に全面改修・リリースし、OIHを応援していただくメンターの紹介や先輩起業家の成功事例等を掲載。 ● 「TechInAsiaTOKYO」に大阪のベンチャー3社とともに出展し、東京圏におけるプロモーションを行った。出展ブースには東京圏のみならず、アジアをはじめ世界各国のスタートアップが集結しOIHのPR及びプレイヤーの勧誘を行った。 ● また、プレス配信事業者の協力のもと、OIH会員企業のプレスリリースを支援する新サービスを年度末まで試行実施し、これまでに8社が利用。 ● <u>アウトカムは目標達成に向けて堅調。メディア紹介は、支援しているベンチャー企業が取り上げられる機会も多くあった。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>イベント数、参加者数とも昨年と同水準で、目標を大きく上回って推移。</u>米国のアクセラレーター(500StartupsやTechstars他)、仏・スイス・イスラエルの各大使館、JETROなどと連携し、海外ピッチイベントの日本予選、セミナーなどを実施。 ● <u>ジェットロ大阪と初めてジェットロ・イノベーション・プログラム深セン(JIP)を開催。</u>OIHでの事前研修を経て、深センハイテクフェアに出展及び現地でのピッチを実施。現在、継続中の商談もあり、中国でのビジネス展開の機会を創出した。 ● 上記JIPプログラムの現地パートナーである深セン清華大学研究院傘下のLeaguer Xと2月に連携協定を締結し、中国市場に関心のあるスタートアップへの支援体制も構築。 ● 若手起業家や学生を対象に例年シリコンバレーで実施してきた海外ワークショップを初めて深センにて開催。シリコンバレーより参加者は少なかった。 ● 本年度、OIHの会員組織を「OIHメンバーズ」へと改称。会員数も順調に推移し、会員の持つネットワークも拡大し、新事業創出のための活動スペースの提供や、メンター制度を整備した。 ● 経産省のイントルプレナー育成事業「始動」参加者と連携し、新たに「イントルプレナーミートアップ」プログラムを構築。昨年度に引き続き、大企業新規事業担当者をOIHに誘引している。 ● そのほか、実証実験やAIビジネス支援事業を実施している大阪商工会議所や大阪弁護士会など連携先が広がるほか、Facebook社と連携したエンジニアコミュニティを立ち上げ、エンジニアの呼び込みが期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>イベント数は目標を上回っている。</u> ● <u>上期はアメリカやスイスのアクセラレーターや外国企業が主催するピッチイベント、ハッカソン、オープンイノベーション等を実施した。</u>下期は昨年に引き続きオランダ発祥の国際ピッチコンテストの日本予選を実施。 ● NICT(情報通信研究機構)主催の「起業家万博」・「起業家甲子園」の大阪予選なども昨年に引き続き開催、今回は予選会の前に出場者に対してメンタリングも実施し、ビジネスプランの発表のブラッシュアップも実施した。 ● <u>起業家人材を増やすため、学生等を対象とした教育事業(ニーズ顕在化プログラム)を実施した。</u>外部団体との連携によって、参加者数や内容も充実したプログラムとなりプロジェクト創出にもつながった。 ● <u>大学のシーズを活用したプロジェクト創出をめざし、国立大学ファンドの協力によるテックミーティングを開催した。</u> ● <u>OSAPで第3期、第4期各4カ月ずつ計20社のベンチャーを、大企業やベンチャーキャピタルのメンタリング等により支援し、資金獲得や事業プランの改善等につなげ、プロジェクトの推進を支援した。</u>昨年度の第1期からの累計で投資・融資合わせて約24億円の資金獲得に成功しており、大企業等との連携事例も出てきている。 ● <u>以上の結果、創出・推進できたプロジェクトは目標の50件に対して、55件となっている。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内及び海外で活躍する起業家から自身の体験談を踏まえた講演や各国で起業家支援に取り組むアクセラレーターや行政関係者によるパネルディスカッションを通じて、大阪がイノベーションが次々と生み出される街となるための議論を行った。 ● <u>今回初の試みとして、本市がアジアに構築しているビジネスパートナー都市ネットワーク、フレンチテック、テルアビブ、深センから優秀なスタートアップ企業を選出し、質の高いピッチコンテスト(Hack Award)を実施した。</u>翌日はジェットロ等と連携し関西の大企業等の新規事業担当者とHack Award登壇企業による商談会も実施。 ● サブ会場では、OIHで支援した起業家による出展ブースやVCとのマッチングを実施した。また、関西の各大学からの推薦を受けた学生が出場するピッチコンテスト「KANSAI STUDENTS PITCH Grand Prix 2018」を初開催し、多くの学生の来場者を得ることができた。優勝者は、総務省の「起業家甲子園」でも「総務大臣賞」を受賞しており、高いレベルの学生起業家が集まった。 ● 昨年に引き続き、ピッツバーグで開催されるMonodukuri Hardware Cupの日本予選も開催した。 ● うめきた2期協議会が主催する「イノベーションストリーム Kansai」も同時開催。しかし、<u>来場者数や動画配信は昨年には届かなかった。</u> ● <u>外国人数は前回実績を下回った。</u>
来年度の方針			<ul style="list-style-type: none"> ・連携する国内外のコミュニティや(WEB)メディア、関係機関との連携、英語による発信など、発信力の強化に引き続き取り組む。 ・本市の他のイノベーション関連施策と連携し、大阪で多くの施策が展開されていることを発信し、「イノベーション都市・大阪」のイメージづくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き様々な団体と共催することで、幅広い分野・テーマのイベントを開催し、多様な人々を呼び込む。 ・コミュニティや外部団体等との連携を強化しプロジェクト創出等につなげていく。 ・海外の連携先とともに起業家の相互交流の実現をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・起業家やオープンイノベーション志向の企業等とのネットワークを拡大するとともに、国内外のピッチイベント等の「つながる機会」を増やして、参加していただくことで、つながりの質、量を高めていく。 ・起業家教育プログラム等によって、新規ビジネスの創出をめざす。 ・産学連携の取組みを進め、IT以外のテクノロジー系のベンチャーの輩出をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪市やOIHが培った海外ネットワークを活用し、優秀なスタートアップの参画に引き続き取り組む。 ・外国人参加者数を増やしていくために、関西エリアの留学生ネットワーク等と連携するとともに、HackAwardの質も高めて国内外からの参加者を増やす。
促進会議会評価	段階別評価	A	A	S	A	
	事業総括コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・今大阪にある資産を活かしている取り組みはずばらしい。OIHのグローバルネットワークを深化させていくと良い。 ・海外のメガシティでは、スタートアップと共生的なまちづくりを始めている。大阪も国連のレポートでグローバルメガシティに位置付けられており、ニューヨークなどの取り組みを参考にしても良い。 ・イノベーションやスタートアップへの理解を、市民にも日本の国内の方々にも、広く理解していただくのも、この事業の非常に重要なミッション。 ・目標を確実に達成している。国内の他地域に比べて大阪は素晴らしいと思うが、海外に目を向けるともう少し高い目標を持ってやっていかないといけない。現実的な目標と、目線を上にあげるチャレンジ的な目標があっても良い。 ・イノベーションやスタートアップに対する、既存企業の理解も重要である。大きな組織とスタートアップが繋がっていくようなまちになれば良い。 ・大企業においても、人材の流動性が高まったり、横連携組織が生まれたりしている。OIHがハブとして取り組めるのではないかな。 ・ビックデータの活用など、データ連携も急速に進んでおり、次のアクションとして重要である。 				